



## 平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年1月31日

上場会社名 株式会社 マースエンジニアリング  
 コード番号 6419 URL <http://www.mars-eng.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松波 明宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 佐藤 敏昭

TEL 03-3352-8555

四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	18,264	3.7	2,719	20.4	2,934	20.6	1,915	35.0
29年3月期第3四半期	18,973	1.4	3,418	0.6	3,697	0.3	2,946	19.8

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 1,722百万円 (53.4%) 29年3月期第3四半期 3,697百万円 (219.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	114.69	
29年3月期第3四半期	176.46	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	60,227	51,748	85.9	3,098.71
29年3月期	60,623	51,195	84.4	3,065.55

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 51,748百万円 29年3月期 51,195百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		35.00		35.00	70.00
30年3月期		35.00			
30年3月期(予想)				35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,000	0.3	4,000	7.3	4,300	8.4	2,700	25.4	161.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	22,720,000 株	29年3月期	22,720,000 株
期末自己株式数	30年3月期3Q	6,019,917 株	29年3月期	6,019,812 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	16,700,136 株	29年3月期3Q	16,700,452 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が発表日現在において入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、米国の法人税引下げや中国経済の減速等の海外経済への懸念、地政学リスクの高まり等、不透明感があつたものの、企業収益の向上や雇用環境の改善が進み、緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループの主要販売先であるパチンコ業界では、「特定複合観光施設区域の整備に関する法律（IR推進法）」施行に伴うのめり込み防止対策の検討が行われ、「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則及び遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則の一部を改正する規則（平成29年9月4日公布、平成30年2月1日施行）」の施行が控えていたことから、パチンコホールの新規出店や大規模改装は先送りされる傾向が続きました。

このような状況の中、開発型企業グループである当社グループは、開発、製造、販売、アフターサービスに至る一貫体制で、製造原価の低減や多様化する顧客ニーズに適した製品を販売するとともに、充実したアフターサービス体制で付加価値の向上に努め、他社との差別化を図りながら提案販売を行ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高182億64百万円（前年同四半期比3.7%減）、営業利益27億19百万円（同20.4%減）、経常利益29億34百万円（同20.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益19億15百万円（同35.0%減）となりました。

セグメントの実績は次のとおりであります。

#### [アミューズメント関連事業]

当社グループは、開発型企業グループとして、ホール経営や従業員の働く環境の改善につながる製品を開発し、業界標準となる製品を次々とリリースしてきました。

7月から9月にかけて全国主要都市で開催しました新製品発表展示会では、業界の常識を覆す新式のパーソナルPCシステム「マース ユニコン」、きめ細かい接客サービスをサポートする「ウェアラブル端末」、受動喫煙防止対策に有効な「SMOKE POINT」等を発表しました。

空気の流れで紙幣を搬送する業界随一のAir紙幣搬送システムは、順調に導入件数を伸ばし、累計で800店舗を越えました。特にハイスpekモデルの立体Air紙幣搬送システムは、技術力の高さやホール業務の改善効果等が市場で高く評価され、大型案件や他社ユーザーの獲得につながりました。

パチンコホールは、慢性的な人手不足や人件費の高騰等の問題点を抱えており、これらの諸問題を解決し少人数で運営できるパーソナルPCシステムは、市場からの評価が高く、潜在的なニーズが多く存在しております。しかしながら、業界に対する先行き不透明感は強く、新規出店や大規模改装の案件が少なかったことから販売活動は厳しい状況となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるパーソナルの売上実績は55店舗、当第3四半期連結累計期間末時点における導入（実稼働）店舗数は累計1,626店舗（市場シェア18.8%）となりました。また、パーソナルを含めたプリペイドカードシステムの売上実績は57店舗、導入（実稼働）店舗数は累計1,976店舗（市場シェア22.8%）となりました。

この結果、アミューズメント関連事業の売上高は、114億45百万円（前年同四半期比13.4%減）、セグメント利益は24億7百万円（同21.5%減）となりました。

#### [自動認識システム関連事業]

自動認識システムは、RFID、バーコード、X線検査装置等、各種データを自動的に読み込み、内容精査、認識するシステムであり、当社子会社の株式会社マーストークンソリューションが主体となり、広い分野で積極的に販売活動を展開しております。

国内外製造業の設備投資は、業界ごとに緩やかな回復基調に変化しつつあり、新たな更新需要や新規市場への展開が進んでおります。そうした中、前期より新規開拓した物流業界向け端末の販売が好調に推移しました。また、X線検査装置事業においては、当社グループでは、世界一の高分解能（性能）を誇るX線源を搭載した産業用X線検査装置を製造販売しており、スマートフォン向け小型電子部品や電気自動車向けリチウム電池の市場が世界的に成長していることを背景に、それらの生産過程での検査に必要なX線検査装置の販売が好調に推移しました。

この結果、自動認識システム関連事業の売上高は55億37百万円（前年同四半期比20.6%増）、セグメント利益は6億83百万円（同45.4%増）となりました。

[ホテル関連事業]

ホテル業界におきましては、平成29年の訪日外国人の人数が2,800万人(推計値)を超え、昨年に続いて過去最高を更新しており、観光需要は好調に推移しました。

博多地域でトップクラスの稼働率を誇るホテルサンルート博多は、開業20周年を機に全館リニューアル工事(2月20日から5月31日まで)を実施し、6月1日にリニューアルオープンしました。工事期間中、販売客室数が減少したことや改装及び客室備品等の購入もあり、売上高及びセグメント利益は前年同期と比べて減少しましたが、利用客の評価は更に高まり、リニューアル後の売上は前年同期比を上回りました。静岡県御殿場市のマースガーデンウッド御殿場は、水と光のファンタジー(幻想的な噴水ショー)や宿泊者向けのイベントを定期的に開催し、新規顧客とリピーターの獲得に努めました。関連事業の「海鮮処博多松月亭(ホテルサンルート博多内)」及び「鉄板焼銀明翠GINZA(東京銀座)」は認知度も高まり、順調に利用者数が増加しました。また、インターネットによる関連商品の販売が好調に推移しました。

この結果、ホテル関連事業の売上高は12億81百万円(前年同四半期比9.6%増)、セグメント損失は3億77百万円(前年同四半期は1億25百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態は以下のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は602億27百万円となり、前連結会計年度末と比較して3億96百万円減少いたしました。

流動資産は380億4百万円となり、前連結会計年度末と比較して18億1百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、現金及び預金が36億77百万円減少し217億67百万円となりました。

固定資産は222億22百万円となり、前連結会計年度末と比較して14億5百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、投資有価証券が14億9百万円増加し75億23百万円となりました。

流動負債は50億59百万円となり、前連結会計年度末と比較して9億3百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、未払法人税等が7億70百万円減少し3億54百万円、賞与引当金が2億12百万円減少し2億27百万円となりました。

固定負債は34億19百万円となり、前連結会計年度末と比較して46百万円減少いたしました。その減少の主な内訳は、リース債務が50百万円減少し9億37百万円となりました。

純資産は517億48百万円となり、前連結会計年度末と比較して5億53百万円増加いたしました。その増加の主な内訳は、利益剰余金が7億46百万円増加し475億92百万円となりました。

自己資本比率は85.9%となり、前連結会計年度末と比較して1.5ポイント増加いたしました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は217億67百万円となり、前連結会計年度末と比較して36億77百万円減少いたしました。

当第3四半期連結累計期間における「営業活動によるキャッシュ・フロー」は4億20百万円の支出(前年同四半期は25億21百万円の収入)となりました。主な要因は、営業貸付金の増加額19億64百万円等によるものです。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は21億23百万円の支出(前年同四半期は29億69百万円の収入)となりました。主な要因は、投資有価証券の取得による支出17億31百万円、有形固定資産の取得による支出5億74百万円等によるものです。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は11億35百万円の支出(前年同四半期は10億47百万円の支出)となりました。主な要因は、配当金の支払額11億35百万円等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年10月16日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,444,664	21,767,634
受取手形及び売掛金	5,478,483	5,748,579
リース債権及びリース投資資産	1,386,182	1,238,805
有価証券	349,965	349,930
商品及び製品	1,923,992	1,737,113
仕掛品	432,434	418,362
原材料及び貯蔵品	957,851	1,245,251
その他	3,836,949	5,504,333
貸倒引当金	△3,997	△5,483
流動資産合計	39,806,526	38,004,527
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,806,378	6,777,646
土地	6,078,964	6,082,364
その他(純額)	412,783	536,609
有形固定資産合計	13,298,126	13,396,620
無形固定資産	149,288	137,422
投資その他の資産		
投資有価証券	6,114,086	7,523,474
その他	1,441,146	1,287,229
貸倒引当金	△185,631	△122,268
投資その他の資産合計	7,369,600	8,688,435
固定資産合計	20,817,015	22,222,477
資産合計	60,623,541	60,227,005
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,502,426	2,411,293
リース債務	880,298	748,907
未払法人税等	1,124,497	354,142
賞与引当金	440,172	227,193
その他	1,014,971	1,317,587
流動負債合計	5,962,367	5,059,124
固定負債		
リース債務	988,191	937,228
役員退職慰労引当金	715,585	739,435
退職給付に係る負債	551,303	563,739
資産除去債務	29,222	29,646
その他	1,181,628	1,149,190
固定負債合計	3,465,931	3,419,239
負債合計	9,428,299	8,478,364

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,934,100	7,934,100
資本剰余金	8,371,830	8,371,830
利益剰余金	46,846,078	47,592,380
自己株式	△12,314,885	△12,315,135
株主資本合計	50,837,123	51,583,175
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	665,600	442,216
繰延ヘッジ損益	△4,716	—
退職給付に係る調整累計額	△302,764	△276,750
その他の包括利益累計額合計	358,119	165,466
純資産合計	51,195,242	51,748,641
負債純資産合計	60,623,541	60,227,005

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	18,973,109	18,264,777
売上原価	9,486,207	9,414,989
売上総利益	9,486,902	8,849,788
販売費及び一般管理費	6,068,852	6,130,724
営業利益	3,418,049	2,719,064
営業外収益		
受取配当金	249,645	193,955
その他	29,491	22,759
営業外収益合計	279,136	216,715
営業外費用		
為替差損	—	1,497
自己株式取得費用	52	—
営業外費用合計	52	1,497
経常利益	3,697,133	2,934,282
特別利益		
投資有価証券売却益	754,511	—
特別利益合計	754,511	—
特別損失		
減損損失	7,264	—
関係会社株式売却損	7,192	—
特別損失合計	14,456	—
税金等調整前四半期純利益	4,437,187	2,934,282
法人税、住民税及び事業税	1,351,182	875,306
法人税等調整額	139,088	143,662
法人税等合計	1,490,271	1,018,969
四半期純利益	2,946,916	1,915,312
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,946,916	1,915,312



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	2,946,916	1,915,312
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	700,777	△223,383
繰延ヘッジ損益	23,469	4,716
退職給付に係る調整額	26,638	26,014
その他の包括利益合計	750,885	△192,653
四半期包括利益	3,697,801	1,722,659
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,697,801	1,722,659

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,437,187	2,934,282
減価償却費	421,656	517,985
減損損失	7,264	—
引当金の増減額(△は減少)	△223,334	△251,006
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	12,146	12,436
受取利息及び受取配当金	△249,768	△194,572
投資有価証券売却損益(△は益)	△754,511	—
関係会社株式売却損益(△は益)	7,192	—
売上債権の増減額(△は増加)	△161,066	△270,095
リース債権及びリース投資資産の増減額(△は増加)	403,465	159,702
たな卸資産の増減額(△は増加)	△6,889	△86,448
営業貸付金の増減額(△は増加)	35,765	△1,964,332
仕入債務の増減額(△は減少)	70,146	△91,133
リース債務の増減額(△は減少)	△468,672	△182,354
その他	381,962	398,088
小計	3,912,545	982,551
利息及び配当金の受取額	249,768	194,572
法人税等の支払額	△1,640,444	△1,597,225
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,521,869	△420,102
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△128,704	△574,781
投資有価証券の取得による支出	△461,760	△1,731,394
投資有価証券の売却による収入	4,130,750	—
子会社設立による支出	△50,000	—
子会社株式の取得による支出	△388,000	—
その他	△133,024	182,531
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,969,261	△2,123,643
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△12,805	△249
配当金の支払額	△1,035,076	△1,135,045
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,047,881	△1,135,294
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,531	2,011
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,447,780	△3,677,029
現金及び現金同等物の期首残高	19,315,885	25,444,664
現金及び現金同等物の四半期末残高	23,763,666	21,767,634

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	13,212,765	4,591,461	1,168,883	18,973,109	—	18,973,109
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	419,522	76,102	10,814	506,440	△506,440	—
計	13,632,287	4,667,564	1,179,698	19,479,550	△506,440	18,973,109
セグメント 利益又は損失 (△)	3,067,961	469,957	△125,484	3,412,434	5,614	3,418,049

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額5,614千円には、セグメント間取引消去5,614千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	アミューズ メント 関連事業	自動認識 システム 関連事業	ホテル 関連事業			
売上高						
外部顧客への 売上高	11,445,945	5,537,369	1,281,462	18,264,777	—	18,264,777
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	392,270	103,024	11,514	506,809	△506,809	—
計	11,838,216	5,640,393	1,292,976	18,771,587	△506,809	18,264,777
セグメント 利益又は損失 (△)	2,407,943	683,184	△377,406	2,713,722	5,341	2,719,064

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額5,341千円には、セグメント間取引消去5,341千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。